

■スペイン：エンデサ、CCGTの運転休止に対して補償の必要性を訴える

2014年11月10日付の報道によると、スペイン大手電力のエンデサは、所有する5基(347万kW)のガス・コンバインドサイクル発電設備(CCGT)の内、2基(Huelva:39.8万kWとFoix:52万kW)の運転を休止させると発表した。近年スペインでは、電力需要が減少する一方で、再エネ発電電力量が増加しており、CCGTの設備利用率が大幅に悪化していることがその理由。同様の理由から、スペイン大手電力のイベルドローラでも2013年7月にCCGT(80万kW)の運転休止を運開からわずか7年で産業省に申請している。このような状況についてエンデサは、再エネ発電の間欠性を補完し安定供給に寄与するコンバインドサイクルに対して何らかの補償が必要だと訴えた。